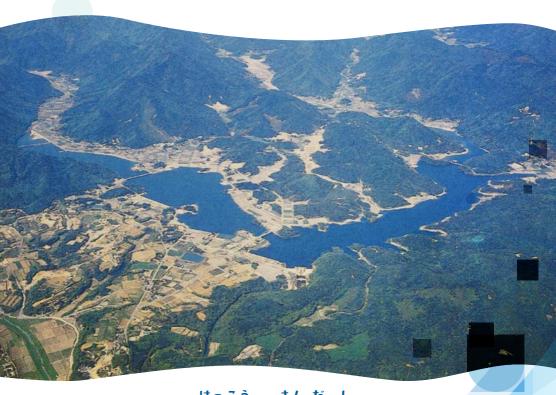
千丈寺湖の湖底に静かに眠る

さんだったまし



はっこう せんだし 発行:三田市

1 三田を悩ませた洪水と水不足





青野ダムができる前の三曲市では、昔から長雨が続くと武庫川が泡盤して出んぼは流され街中は水浸しに、白照りが続くと今度は出んぼの水は干上がり農家も市民も水不足に苦しみました。また、三曲以外の宝塚や西宮でも大雨の度に洪水を起こし大きな被害をもたらす「襲れ川」として恐れられていました。そのため、ダム建設による洪水や水不足の間題の解決は、武庫川沿いに住む人々の長年の願いでした。





② 14年かかった話し合い





ダム建設の予定地となった地売の人たちはこの計画に強く反対しました。なぜなら情野ダムが完成すると87戸(約330人)の家々と、昔から大切に受け継いできた曲んぼや畑、お墓までもがダムの底に沈んでしまうことになっていたからです。





覚慮順や誓節市の行政の人たちと、地荒の人たちとの語し書いは 14 躍もかかりました。そして昭和 56 年 12 月、最後まで反対していた地荒の人たちが「三田の将来のため」と、遂にダム建設に賛成してくれたのです。

3 青野ダムに沈んだ村





ダムができる前、ここは曲んぼや畑が広がるのどかな農村地帯でした。そこに住む人々は先祖代々受け継がれてきた豊かな土地で主にお米を作って暮らしていました。

ダムができてから農村の風景は大きく変わりましたが、長年悩まされ続けてきた洪水や水不足は起こらなくなり、約3万人ほどだった三市の人口は、あっという間に10 た道えました。三世市が、北摂地域において今のように立派な都市に発展することができたのは、青野ダムのおかげと言ってもいいでしょう。





4 発掘された歴史

はっくつちょう さ ふうけい 発掘調査風景



のぼ がきあた はっくつ たいりょう すえき き登り窯跡から発掘された大量の須恵器



青野川、黒川流域は、豊かな自然のおかげで大昔から人々が生活の場としていた地域です。青野ダム建設予定地でも事前の調査でたくさんの遺跡(大昔の人たちの生活の跡)があることがわかり、昭和52年から約10年間、兵庫県の教育委員会による教力がりな発掘調査が行われました。その

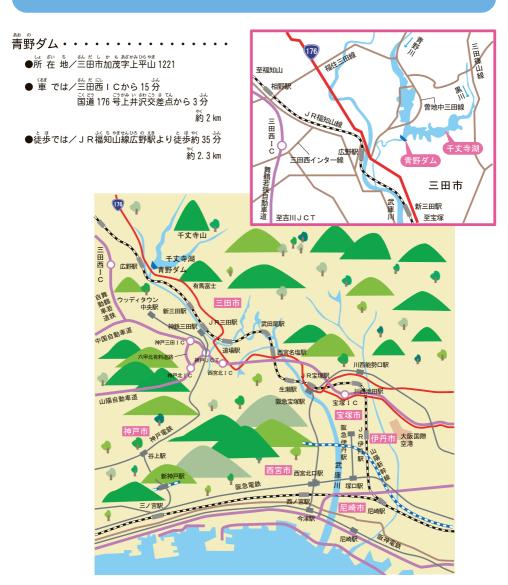
またい。 せき はっけん された 「陶棺」



結果、多くの須恵器(昔の陶器)が発掘され、芋稈以上前、芋皮も油の周辺は関西の一でも陶器づくりが大変盛んな地域だったことがわかりました。ちなみに、広野地区の「茉」という地名は、かつてそこが須恵器の名産地であったことによると考えられています。

数千年の昔から昭和の終わりまで、この地で暮らしてきた たくさんの人々の生活の跡は、今静かに千丈寺湖の湖底に眠っているのです。

青野ダムと干丈寺湖はここにあります





三田市役所産業振興部 まちのブランド観光課

Tel:079-559-5012 Fax:079-559-5024



公式サイト